


- 松本 子どもの姿(±)の追加事項は何か有りませんか？
- 平島 上手くいっている所(地域や団体)を参考にすれば良いかも知れません。
- 松末 表面(外から)見ると上手くやっている所も、中に加わって中身が見えると大変だったりします。貧困救済という観点で、地域と子どもをつなぐ活動が上手くやれている所も有ります。(豊島区)
- 平島 東中の「朝弁」も貧困も関係あるかもしれないが、朝ご飯を食べる習慣付けにも良いと思う。
- 松本 人から暖かい体験を受けた、世話になった、という体験は非常に大切であり、必要である。その想いを今度は人に返そう、等という気持ちを芽生えさせる。
- 松末 逆に最近の子どもは、小さい頃から「知らない人には声を掛けるな・返事をするな」等と言われて育って来ている。そういう意味では難しい部分もある。
- 平島 しかし昔の地域の人達からは、悪い事をして怒られるばかりで、恐い存在だった。地域で暖かく見守っている・見守ろうとしているのは、むしろ今の方が強い。
- 松本 昔は皆等しく貧しく、同じ条件の者ばかりで一緒に楽しく遊んでいた。今の方が家庭間の格差が有る。昔は自然を相手に大勢で様々な遊びを行っていたが、今は家の中で少人数で遊んでおり体験が少ない。
- 平島 最近では学年を超えた遊びや付き合いが少ないので、風邪等の感染もそのクラスだけだったりしている。
- 松末 色々なイベントとかも催されているが、参加する子どもも大人の指導者等も特定の人に限定されている。
- 松本 より多くの子ども達を集わせるなら、身近な場所(学校や公民館等)での企画が良いと思われる。
- 平島 東小の放課後子ども広場は、アンビシャスの発展的解消の様な形での成功例。他の地域は？
- 松末 アンビシャス活動他、それぞれの地域でも色々な子どもへの体験支援活動が行われている。
- 安部 放課後や土曜日の子どもの体験の場づくりの活性化を市も推進し始めている。
- 松本 西小では、コミュニティの中にアンビシャスも包含された運営になっている。
- 松末 千鳥小は、土曜日に実行委員会で様々な企画を打合せ、月曜日は「竹の子文庫」を開いている。花見・青柳・舞の里もアンビシャス活動は盛んで、花鶴は独自の「寺子屋」を、小野は準備中である。
- 平島 色々な地域でのそういう活動の情報が伝わって来ない。回覧板や広報での情報くらいである。
- 松本 各地の「地域文庫」も盛ん。小野:米多比館、花鶴:鹿部?、舞の里:星の子、千鳥:竹の子など。
- 安部 地域のそういった活動をけん引している意欲有る人と、行政とがタイアップして進めた方が良いか。
- 松本 小野・青柳・西小は「通学合宿」を行っている。食事の内容が良いのも特徴。他校区へも拡げたい。
体験の質と量、という観点では如何でしょうか。西小コミュニティでは、春の陣(ビッグボイス)・秋の陣(キックベース・サッカー)、そうめん流し(清滝)を企画したり、地域の自然を活かした活動として、砂浜遊びや毎月松原清掃を行っている。
- 松末 校区に限定されず、誰でも参加出来る企画が欲しい。学校で参加を促すなど橋渡しをすると、参加者も拡がるのではないか。
- 松本 新宮・古賀子ども劇場では千鳥ヶ池公園で、ケガとかも自己責任で遊ぶ「プレイパーク」を催している。
育成会の活動はどうでしょうか。参加率向上への取り組みやPTAとしてはどう動いているのでしょうか?
西小では区長のリードで全員強制加入となっています。実際の活動に参加する子は多くはないですが。市子連の加入は千鳥小の8区のうち南区のみ?で、さや団地では子ども会が無い状態です。
- 松末 加入していないと色々なチャンスや参加権が無い、保険対象とならない、等の弊害が有る。参加者を増やすには、楽しい体験(食事とか)とするべきで、支える大人も楽しめる企画を考えて、それをいつもオープンにしておけば良いと思う。

子どもの大人の暖かい支援 ~~必要~~ 

指導者の固定化

参加しやすい近い居場所 (学校、公民館)

体験の量と質 → どのような体験をさせるのか?
 と利用を!

育成会の参加率? → 増やす.

PTA活動 = 加入にたっているか?

大人も楽しく活動

いづれもオーフンにしておく

子どもの体験不足 → 体験の提供

子どもの参加率? → 増やす工夫

地域格差 →

アンビシャス広場の活性化

寺小屋.

通学合宿 (3) 青小、小野、西

地域文庫 にんあゐ
 活用度 ↑
 広がる

フレイバー

楽しい体験? (食べる?)

平成27年度1月期 社会教育委員の会議『家庭の教育力』班 ノート

キーワード：『放課後の子どもの過ごし方』

家庭と地域の視点で見ていく

プラス面とマイナス面を出しあう ⇒ 現状からでよいのでは

家での過ごし方 ⇒ ニーズ調査から見ると自宅が多い

15:00 (15:30) ~ 17:00 ←母の帰宅まで

※日々の過ごし方で考える（長期休みは別とする）

ニーズ調査では『自宅ですごしている』が多いが、何をしていますか？は不明

過ごし方で考えられること ←

- ・帰って1人
- ・兄弟
- ・保護者

親が理想とする 『こうあってほしい』こと、で考えてみる

※基本の手洗いなどの生活習慣は別として

①宿題（先生との約束）

※誰が家庭の中で関わっているか

②役割があるか

※その役割が習慣化するか 塾、親の都合、便利になって仕事がない

③親は子どもが何をしているか、把握しているか

忙しいから無関心、周りの状況、兄弟であっても関わらない。

④ ①②が終われば、あとはゆっくりする時間 家にいる人との会話が大事

その結果が早寝・早起き

本を読む

中学生・・・ゲーム・スマホ等

（北中）自分たちで決まりを作る。生徒会の呼びかけ

↓

人間関係を保つためのラインの使用を防げる

※メディアの約束事が家庭であるか←自分が納得して守ることができるか

納得したルールがある

小・中学校でのメディア教育

学校と家庭の連携

↓

年齢的段階別教育

・生まれた環境がメディアの中

平成27年度1月期 社会教育委員の会議『家庭の教育力』班 ノート

⑤食生活

朝ごはん：誰と食べるか

誰と 誰が作ったものか 何を 食べるか

↓

一人で 誰かと話して

食べられていない子→古賀東中学校の「朝勉&朝弁」

学校で行うことの抵抗→現実のレベルアップ

放課後をはじめとして

家の中での時間の流れを

こうあってほしい ということから入る

↓

ならない課題 → その課題解決

ニーズ調査を基本にみていく

| | |
|------|------------|
| 食 | } へと広がるのでは |
| あそび | |
| メディア | |
| 友だち | |